

編 集 後 記

- 平成 23 年度の初等教育学科紀要をお届けします。今年度も無事発刊できましたことに、感謝申し上げます。
- 本号には、7 編の論文と 1 編の資料が掲載されています。小川哲男先生はイギリスの理科カリキュラム研究をもとに独自のカリキュラム論を展開しています。清水満久先生は、新学習指導要領の趣旨を生かした図画工作・美術教育の小中学校一貫のカリキュラムを提案しています。醍醐身奈さんと押谷由夫先生は、これからの大きな課題である高等学校における道德教育について理論的考察とアンケート調査をもとにした考察を行っています。岸田幸弘先生は、教師への再インタビューをもとに不登校児童生徒への支援の在り方について分析しています。亜森瑪依拉さんと横山文樹先生は、保育の場面における望ましい子どもへの語りかけについて実証的に明らかにしています。また、永岡都先生は、空間音楽という新しい分野の研究にチャレンジしています。内山弘美先生は、これからの教員養成に求められる環境教育のカリキュラムについて提案しています。幼児教育から高等教育まで、さらに音楽の本質論にわたり、深い考察と提案が行われています。なお、資料として昨年から始まりました「春季ボストン教育研修」についての取り組みの実態と効果についてまとめています。初等教育学科の研究面の充実・推進に向けて、本紀要がさらに機能していきますことを願います。
- ここからは、初等教育学科の近況報告になります。平成 23 年 3 月 11 日、未曾有の東日本大震災に見舞われましたが、幸い初等教育学科及び大学院人間教育学専攻の学生は全員無事でした。津波被害を受けた南三陸町の自宅に帰省していた学生がいたのですが、無事を確認し安堵したことでした。被災された皆様方に心よりお見舞い申し上げます。卒業式は学科ごとに行われ、坂東眞理子学長の祝辞とともに、教職員一同で門出を祝うことができました。卒業生は 48 名でした。卒業後の進路は、公立小学校教諭 22 名（内常勤 18 名）、私立幼稚園教員 11 名、保育所保育士 9 名（内公立 8 名）、公務員（教職以外）1 名、一般企業 2 名、大学院進学 1 名、未定 2 名となっており、就職難のなか、卒業生の健闘が光ります。大学院人間教育学専攻の卒業生は、2 名でした。1 名は、帝京大学に引き続き勤めており、ときどき大学に来てくれます。1 名は、幼稚園に勤めているのですが、さらに研究生として本専攻で研究を続けることになっています。
- 平成 23 年度の入学生は、初等教育学科が 104 名です。入学式は、大震災後の重い空気の中で、新入生のみ参加により予定通り挙行されました。新入生たちには、大震災後の日本を自分たちが創っていくという気概をもって大学生活を送ってほしいと願います。
- 初等教育学科が設立されて 6 年目を迎えます。大学院人間教育学専攻も 4 年目を迎えます。学部と大学院が一体となった教員養成の確立に向けて、さらに充実改善を図っているところです。
- 最後になりましたが、投稿いただきました先生方をはじめ、編集等において大変なお世話になりました近代文化研究所の皆様心より感謝申し上げます。

編集委員

☆掲載論文の無断転載を禁じます。

〒154-8533
東京都世田谷区太子堂一ノ七
電話 03 (三四一一) 五三〇〇発行所 昭和女子大学
近代文化研究所印刷所 三 秀 舎
編集発行人 山 田 潔
平成二十三年五月二十日 印刷
平成二十三年六月一日 発行

学 苑 八百四十八号

定 価 八四〇円（本体八〇〇円）
購読料 一カ年分 一〇〇八〇円
（本体 九六〇〇円）